

今市遺跡出土の絵画土器

- 1 出土遺跡 今市遺跡
(富山市八幡地内、富山市立八幡小学校の南西約 250m)
- 2 調査時期 平成 20 (2008) 年 12 月
- 3 調査原因 下水道工事に伴う工事立会調査

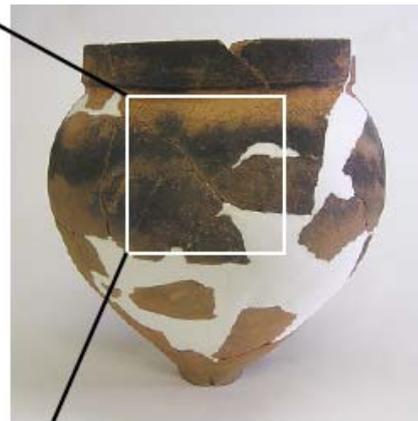
4 絵画土器について

出土した今市遺跡は、神通川下流左岸の平野部に位置しています。

出土品整理のため平成 21 年 12 月に土器の破片をつなぎ合わせたところ、表面に絵が描かれていることがわかりました。時期は弥生時代終末期(約 1,800 年前)と考えられます。弥生時代の絵画土器は富山市初の出土で、県内でも数少ない遺物(射水市伊勢領遺跡に次いで 2 例目)です。

魚のヒレあるいは銀杏の葉のようなものがみえますが、何を表現したのかは謎です。絵の左側と右側は、線の太さや構図が異なるので別のものをイメージしていた可能性があります。

弥生土器に描かれる絵画は、龍、鹿、建物、船など様々なモチーフがあります。ところが、弥生時代後期(約 1,900 年前)になると、本来の絵から大きく崩れた意味不明な絵が多くなります。この土器の絵も、模倣が繰り返されたり、モチーフの一部だけを描いたりしたため、不明瞭な絵画になったと思われる。こうした簡略化した絵画は、人に見せるためではなく、「描く」という行為自体が儀礼的に重要であったことを示しています。



絵画土器

赤い線で表示した所が絵画部分
約 10cm × 10cm の範囲に描く

土器の規格

口径 28cm、最大径 33cm、底径 6.5cm
高さ 34.5cm、厚さ 0.5~1cm